

小田川決壊の要因である河川内の樹木伐採始まる

被災者の声反映した党国会議員団の要請 国を動かす



豪雨災害で甚大な被害をもたらした倉敷市真備町を流れる小田川の決壊・・・その原因究明が求められています。その原因の一つに指摘されているのが「小田川の中州に発達した樹林」です。

国の河川整備計画（2017年9月策定）でも「小田川の流下能力不足の原因は、高梁川からの背水影響による水位上昇に加え、河道掘削の未実施や樹林化による河積不足があります」と指摘しているほどです。

日本共産党は、かねてから小田川の治水対策について地域住民とともに「高梁川との合流点の付け替え」とともに、「樹木の伐採などの河道整備」を要求してきました。

そして、この災害直後も、7月13日の政府交渉で、「樹木の伐採」を強く要求しており、仁比聡平参議院議員、山添拓参議院議員（国土交通委員）も国交省に樹木の伐採を迫っています。

そうした中、今年度の予算の前倒しとして先日から樹木の伐採が始まっています。

明日29日 台風が中国地方に襲来

二次被害の危険 万全の対策を求めて

明日29日の一日かけて、中国地方を台風12号が東から西に通過します。これまでに例のないケースであり、豪雨災害の被災地での二次被害、さらに新たな被害も予想されます。

行政への万全の対策に努めるとともに、それぞれの地域で機関・支部・党員・議員の安全対策や避難対応など進めましょう。